

乗艦新聞記者心得

艦隊参謀官ノ指揮ヲ受ケ指示ノ軍艦ニ乗組ム事

乗艦中ハ艦長ノ指揮ヲ受ケ總テ艦内ノ諸條規ヲ嚴

守スヘキ事

乗艦ノ際ハ寢具(ケット四五枚)食器茶碗(箸等)衣囊(襪ヲ入)

レロニテ締ル襟ナシタルモ及手提ケカバンノ外携フベカラズ

大本營

乘艦新聞通信員取締規程

第一條 新聞通信員乘艦中ハ本規程ヲ遵守スヘシ

第二條 長ニ掲グル事項ハ通信スルコトヲ得ス

一 戦機ニ関スル命令訓令並ニ報告

一 交戦ノ際ニ於ケル我陣形

一 偵察ノ方法及敵艦ト出會ノ原因

一 我艦体兵器及機具破壊ノ撮影

一 彈藥消費高

第三條 通信ノ草稿ハ在乘艦長ニ差出し其許可ヲ受ク

ハシ

大日本

第四條 新聞通信員ハ老謀官ノ指揮ヲ受ケ指示ノ軍艦ニ乗組ムヘシ

第五條 新聞通信員乗艦中ハ艦長ノ指揮ヲ受ケ艦内ノ諸條規ヲ嚴守スヘシ

第六條 新聞通信員在艦中ハ艦内ノ便宜ニ從ヒ士官室又ハ士官次室ニ食食食スルノ待遇ヲ受クベシ

第七條 新聞通信員乗艦ノ際ハ右ノ物ヲ除クノ外携帶スルコトヲ得ス

一 毛布 四五枚

一 食器 (茶碗、箸、類) 壹揃

一 衣囊 (袋ニ衣類ヲ入レ口ニラ締ル様ナシタルモノ) 壹個

一 手提カバン類 壹個

一 文房具 壹式

第八條 服装ハ寢衣ノ外洋服ヲ用ユヘシ
第九條 本規程ヲ犯シタルトキハ其情状ニ依リ退艦ヲ
命スルコトアルベシ

大本營

0386

命訓(6) 十月八日

熾仁

陸兵ヲ護送及旅順ヲ攻畧スベシトノ命令

命令

其艦隊ハ命令第二ヲ全フセシガ為メ陸軍兵ヲ大同江ヨリ金州半島ニ護送シ陸軍ト相協力シ旅順半島ヲ攻畧シテ我カ根拠地ト為スベシ

明治二十七年十月八日

命令十三号

廣島大本營ニ於テ

參謀總長 熾仁親王奉

聯合艦隊長官海軍中將伊東祐亨殿

海軍

0387

(6)甲

命第十四号

命令

根據地ニ在ル常備艦隊附属水雷艇隊ハ司令ノ到着
ヲ待タズ直チニ大同江艦隊所在地ヘ回航スベシ

明治二十七年十月二十日

大本營

常備艦隊附属水雷艇隊

先任艇長海軍大尉真野巖次郎

大本營

命訓 十月二十三日 (6) 甲

命ヲ下ルルノ海軍兵學校備付ノ各校ニ對シテ此ノ命令

命令

廣島灣口防禦ニ對シテ海軍兵學校備付ノ各校ハ一時同
校ニ還付スベシ

此命令ノ執行了レバ報告スベシ

明治三十七年十月二十三日

大本營

是領守新司令長官有地品之允殿

海軍

0389

(6) 甲

命第十六号

十一月二十八日 頒布

命令

西海艦隊報知艦西京丸ヲ以テ當分ノ内聯合艦隊、清水及石炭ノ供給ヲ兼子サセシムヘシ
明治二十七年十一月十八日

大本營

聯合艦隊司令長官 友

大本營

0390

命訓 (由) (6) 甲 十月十八日

行方十七号 ○朝顔丸ノ呼還

年令

朝顔丸ヲ軍艦龍田廻航之為ノ便用スルヲ
聯合艦隊へ清以供給之役勝ヲ解テ横須賀
軍港へ廻航之上同府司令官ノ指揮ヲ受
ケサシムベシ

現在搭載ノ石炭等ハ大連灣へ陸揚ケセ
ニム

明治廿七年十月十九日

大本營

佐世保鎮守府司令官宛

大本營

0391

(6) 甲

大連及旅順占領ニ付陸軍ニ賜タル
勅語ノ寫

旅順ハ渤海ノ関門敵國ノ恃ミテ鎖鑰ト為ス所今
汝等一擧之ヲ拔リ朕深ク其功勞ヲ嘉尚ス漸
次天寒シ前途尚遠シ汝等其レ各々自愛奮
勵セヨ

大連
本
營

0392

命訓 (6) 甲 十月二十三日

○長直路ノ布設水雷撤去スベキ命令今ヲ操所ノ任務

命令十八号

命令

一軍艦艦長江朝鮮國警備中同艦長ヲシテ上陸行

根拠地司令國友海軍大佐ト協議シ同外ニアハル敷

設水雷大砲其他防禦材料ノ撤去ヲ補助セ

三六八

一左撤去結了セハ專ラ仁川釜山間ノ警備

二任セシムルハ

明治廿七年十月二十三日

大本營

佐世保鎮守府司令官 栗山 久八殿

大本營

命訓 由西の十月二十三日

命十九号 〇長直路ノ布設水留ヲ撤去セシムルニ命

余令

一佐世保ハ新送ノ目的ヲ以テ長直路ニアル敷設
水留大砲其他防禦材料ヲ撤去ニ取纏ノシ
ルハシ

一右撤去ニ付テハ軍艦標江ヲミテ補助セシム

一其命令ノ執行了レハ速石根地司令ヨリ

首ニ大本營ニ報告セシムヘシ

明治廿七年十月二十三日

大本營

聯合艦隊司令長官伊東祐亨了殿

大本營

命訓(由) 十月二十日

命訓(由) 筑波ノ任務

命令

一 軍艦筑波ヲミテ朝鮮國警備中國國南
巨濟島及其附近ノ測量ニ從事セムヘシ
一 測量ニ関シテ大本營ノ指揮ヲ受ケサシ
ムヘシ

明治廿七年十月二十日

大本營

横須賀鎮守府司令長官男爵井上良馨啓

大本營

6甲

廿七年十月廿三日

衆議院ハ國民ヲ代表シテ左ノ謹謝表ヲ西郷陸海軍大臣ニ
呈セリ

我帝國ノ忠勇ナル陸海軍隊ノ具サニ遠征ノ艱苦ヲ
嘗メ平壤ニ黃海ニ大捷ヲ奏シ帝國ノ威武ヲ宣揚セ
ルハ國民ノ深ク感激スル所ナリ

衆議院ハ茲ニ誠實ニ國民ノ意志ヲ表彰ス

參謀總長

十月廿三日 前八時 受電報

大本營

0396

余河(由) (6) 甲 十月廿八日

命 卯三十一号。吳軍港布設水雷ヲ撤去セシメラレ

余令

其官ノ陳ニ吳軍港ノ敷設水雷ヲ撤去ス
ヘシ

矣余令ノ執行了レバ報告スヘシ

明治廿七年十一月廿八日

吳鎮守府司令長官有地品之本允殿

大本營

命訓

(6) 甲

十月廿八日

命并世二号

長崎港ノ敷設水留ヲ撤去セシムル

余令

其官ニ建ニ長崎港ノ敷設水留ヲ撤去スヘシ

又余令ノ執行了ニ心報告スヘシ

明治廿七年十月廿八日

大本營

佐世保鎮守府司令官茶山矢八殿

大本營

0398

命訓(6)帝

十月廿九日

命ヲ世三ノ

艦隊ノ一部ヲシテ瀨海ノ沿岸ノ陸奥ヲ調査セシムル

命令

敵ノ艦隊ハ未ダ撲滅セサルモ機ニ乘シ甲ノ方
針ニ從ヒ為シ得ル限リ速ニ陸軍兵ヲ海
軍ノ上陸セシムントス貴官ハ聯合艦
隊ノ一部ヲシテ洋河附近ニ於テ上陸
ヲ調査シ至急ニ之ヲ報告スヘシ
明治廿七年十月廿九日

大本營

聯合艦隊司令長官伊東祐亨殿

大本營

0399

余訓(6) 十二月二日(6)甲

命ヲ廿四号 津京湾ノ施設水留ヲ撤去セシムラル

余令

其官ニ東京湾口ノ敷設水留ヲ撤去スベシ

余令ノ執行了シハ報告スベシ

明治廿七年十二月二日

大本 尾

横須賀鎮守府司令長官男爵井上良馨殿

大本 營

八日午後四時四十五分發電

(6) 甲

貴官ハ長直路ニアル防禦材料ト共ニ部下入
負ラ引率シ佐世保軍港ニ歸着後命ヲ待
ツヘシ

明治廿七年十二月八日

大本營

遠征根據地司令國友次郎殿

大本營

0401

余訓(6)

甲

十二月八日

命五廿五号

根拠地司令以下ヲ佐世保軍港ニ命ヲ待タシムル

余令

遠石根拠地司令國友次郎ヲミテ長直以

防禦材料ト共ニ該地ニ在ノ人員ヲ別率

シ佐世保軍港ニ取着後余ヲ待タシムル

明治廿七年三月八日

大本營

聯合艦隊司令長官伊東祐亨殿

大本營

0402

命訓 (6) 十二月廿八日 (6) 甲

命分七号。○兵備供給船ノ一時陸軍ニ貨渡スル命令

命令

一豆備品供給船萬回丸及土洋丸ノ二艘ヲ今回
ノ輸送中一時陸軍ニ貨渡シ守品ニ於テ引渡
スベシ

二搭載中ノ物品材料ノ一時旅順ニ揚陸セシメ
可成速力ニ取取セシムベシ

明治廿七年十二月廿八日

大本營

佐世保鎮守府司令長官海軍少將 松山久八 殿

大本營

命訓(6) 甲 十一月廿八日

機通テ人等。出師準備中ノ陸兵

電報彙案

大本營ノ準備シ居ル處ニテハ身台師團ノ殘部
ト身二師團トノ大部ハ一月十三日頃大連灣
或ハ旅順口ニ集合セシヲ得ベン但シ其輸送ハ
身二軍司令官ノ意見ニ依リ定ムルニ付尚ホ
同官ハ打合せアリタシ

明治卅八年十一月廿八日

樺山海軍參謀官

聯合艦隊長官カ

大本營

命訓(6) 甲

樺山

廿六年一月九日

電信

第二師團ハ十日十一日十二日午後乘船第六師團、殘部ハ十二日

ヨリ四日間馬関ニテ乘船逐次出發大連湾ニ向テ

威海衛ノ敵艦逃亡セサレ様此際一層警戒ヲ嚴密ニ施行セラル

ニテソ望ム

明治三十八年一月九日午後二時發電

大本營

樺山海軍參謀官

聯合艦隊司令長官宛

命訓(6) 甲

廿六年二月二日

命ヲ共号

甲

命令

一 我作戦上威海衛港ヲ放棄ス可カラサルノ必要アリ由テ暫ク劉公島ヲ占領シ置カントス

二 貴官ハ威海衛港ヲ占領シタルノ後第二軍ニ協力シ劉公島直接防禦ニ必要ナル物件ヲ破壊シ且ツ有要ナル戦利品ヲ收ム可シ

明治二十六年二月二日 廣島大本營、於テ

参謀總長 杉 仁親王 奉

聯合艦隊司令長官 海軍中將 伊東 祐亨 殿

命訓(6) 甲

其年二月三日

命并其号

命令

一 我作戦上威海衛港ヲ放棄スヘカラサル必要アリ由テ

第二軍同港ヲ引揚タル後モ暫ク劉公島ヲ占領シ置

カントス

二 貴官ハ劉公島ニ於テ陸地方面防禦ニ必要ナル堡壘砲

臺砲ノ操作及敷設水雷ノ着守ニ任セシムル為メ威

海衛占領ノ後津ニ部下海兵團及水雷敷設隊ノ一部

ヲ同島ニ分遣シ一時聯合艦隊司令長官ノ指揮下ニ

入ラシムヘシ

明治二十八年二月三日

大本營

旅順口根據地司令長官坪井航三殿



(6)甲

廿八年二月三日

訓令
別分二十号

威海衛港占領ノ後、劉公島ニ於テ陸地方面ノ防禦ニ必要ナル堡壘砲臺砲ノ操作及敷設水雷ノ着守ニ任セシムル為メ旅順口根據地海兵團及水雷敷設隊兵員ノ一部ヲ同島ニ分遣シ一時貴官ノ指揮下ニ入ラシム

明治二十八年二月三日

大本營
聯合艦隊司令長官伊東祐亨殿

大本營

0412

御印

(6) 甲

廿八年二月十四日

訓令

訓令

一 威海衛に於て我カ目的ヲ達シタル後ハ速ニ左ノ艦船
ヲ清國南方沿岸ニ派遣セント欲ス

松島

橋立

嚴島

千代田

吉野

浪速

高千穂

秋津洲

西京丸

近江丸

相模丸

二 貴官ハ前記ノ艦船ニシテ入渠ヲ必要ト認ムルモノヲ便直本

邦ニ廻航セシメテ出征ニ支障ナカラシムヘシ

明治二十八年二月十四日

大本營

聯合艦隊司令長官伊東祐亨殿

大本營

0413

節

(6) 甲

二十八年二月十四日

命令三十一号 命令

貴官ハ廣島湾口ノ陸上防備ヲ撤去スヘシ

此命令ノ執行了レハ報告スヘシ

明治二十八年二月十四日

大本營

吳鎮守府司令長官有地畧之允殿

樺山考解官ヲ命令第三十一号ノ陸軍中將兵ヲ官有セシメ又今命令ノ撤去ノ防備ヲ撤去スルハ撤去スルノ旨ヲ知ル

三月九日撤去結了ノ報告了

大本營

0414

(6) 甲

廿八年二月十四日

命令三十号 命令

貴官ハ横須賀軍港ノ敷設水雷及陸上臨時防備ヲ

撤去スヘシ

此命令ノ執行了シハ報告スヘシ

明治二十八年二月十四日

大本營

横須賀鎮守府司令長官 野島 井上 良馨 殿

横須賀鎮守府司令長官野島井上良馨殿
又命令第三十号ニ關シテ僅量軍物等ハ其儘ニ置キ大抵ハ之復元ヲトシ兼知セムト通ジ

三月十四日結了ノ報告アリ

大本營

0415

(6) 甲

廿八年二月十四日

命ヲミナニテ 命 令

貴官ハ佐世保軍港及對州淺海灣ニ於テ敷設水雷及陸上臨時防備ヲ撤去スヘシ

此命令ノ執行了レハ報告スヘシ

明治二十八年二月十四日

大本營

佐世保鎮守府司令長官 柴山 大 八 殿

梅山冬彦官ヲ命命第百三十三号ノ陸軍省備案ヲ有セシメ又命令ニ依リ梅山ノ陸軍省備案ニ被解任或ハ所屬官等ノ度上通知セシメ又命令第百三十三号ノ陸軍省備案ニ依リ梅山ノ陸軍省備案ニ被解任或ハ所屬官等ノ度上通知セシメ

佐世保軍港敷設水雷及堡固出ハ三月五日對州敷設水雷ハ同九日

撤去濟ノ報アリ又三月二十日ニ陸上臨時防禦ヲ撤去シ此命令

ノ執行了レリトノ報アリ

大本

命訓(6)甲廿八年二月十四日

訓(7)廿二号

訓令

貴官ハ軍艦操江ニ帰朝シ命シ其軍港ニ於テ命シ

待タシムヘシ

明治二十八年二月十四日

大本營

佐世保鎮守府司令長官柴山矢八殿

大本營

0417

命訓 (6) 甲

廿八年二月十六日

訓令

訓令

貴官ハ威海衛港ニ沈没シタル教艦船ノ現状ヲ調査
セシメ其引揚、関スル方法ヲ講究シ至急報告スル
ニ

明治三十八年二月十六日

大本營

旅順口根據地司令長官坪井龍三殿

大本營

0418

今弄三十三号

(6) 甲

二十八年二月二十日

命令

一 今々敵國海軍ノ首カヲ討滅シ北洋ノ海面ヲ制壓セリ
依テ我カ軍ノ一部ヲ南洋ニ進メ彼カ海上ノ主權ヲ全ク
領セント欲ス

二 貴官ハ聯合艦隊ノ首カ即チ松島、橋立、嚴島、千代
田、吉野、浪速、高千穂、秋津洲ノ諸艦及ヒ西京丸、
近江丸、相模丸等ヲ引率シテ佐世保軍港ニ回航シ出
征準備ヲ為スヘシ

三 貴官ハ出征準備ノ整頓スルヲ俟テ其首カヲ別表ノ陸
軍混成枝隊ヲ率キテ先ツ澎湖島ヲ占領シ此地ヲ以テ
根據ト為シ馬鞍群島以南ノ海面ヲ制スルコトヲ勉
ムヘシ

四 陸軍混成枝隊ハ門司港到着ノ時ヲ以テ貴官ノ指揮
下ニ屬セシム

五 聯合艦隊ノ殘部及ニ附屬艦船水雷艇隊ハ貴官本邦
ニ向テ發航ノ日ヲ以テ一時西海艦隊司令長官ノ指揮
下ニ入レ大本營ニ直隸セシム

明治二十八年二月二十日

廣島大本營ニ於テ

參謀總長 彰仁親王 奉

聯合艦隊司令長官海軍中將伊東祐亨殿

(6) 甲

二十八年二月二十日

命才世四号

命令

一 今や敵國海軍、首カヲ討滅シ北洋海面ヲ制陸キリ休メ我軍一部
ニ南洋ニ進大彼ノ海上ノ主權ヲ奪領セシム候ヌ

二 聯合艦隊司令長官シテ松島、橋本、旅島、大田、吉野、津住、高
千穂、秋津洲、滿艦及西京丸、近江丸、相模丸等ヲ引率シ休世保津
港ニ廻航セシム候ニ聯合艦隊ノ残部ノ及海軍艦艇亦雷艇隊ニ同シ
司令長官若邦工務航、日ヲ以テ一時貴官ノ指揮下ニ入ル奉旨ニ連
録セシム

三 貴官ノ先ニ聯合艦隊司令長官ニシテ先年命令及訓令執行
ヲ継続シ且ヨ揚子江外、海面ヲ除キ馬鞍山島ヨリ以テヲ制スルヲ

勉ムヘシ

明治六年二月二十日

廣島大本營ニ於テ

參謀總長 島仁親王奉

西海艦隊司令官 海軍中將 青井上良馨 殿

0422

訓
方世四年(6)甲
廿八年二月二十日

訓令

貴官ハ軍艦鳳翔ニ兵軍港胆航シ年シ同港ニ於テ年々待タレ
ムニ

明治二十一年二月二十日

大塚宮

佐世保鎮守府司令長官柴山次八殿

大木 松宮

0423

訓身五号(6)甲

廿八年二月二十日

佐保鎮守府員長官九直り訓令

貴官ノ年終鳳翔ニ兵軍港廻航ノ年ノ同港ニ於テ年ヲ待タシム

旨

明治三十年二月三日

大本營

兵務方村司員長官有地品充殿

大本營

命

(6) 甲

廿八年二月廿五日

佐世守官へ在る所より陸軍艦隊へ送るべき旨へ送達スレトシテ
附紙發電入ニシテ廿八年二月廿五日

奉令

貴官直ニ松島ニ兵艦ニ回航スヘシ

明治三十二年二月廿五日

大木信

聯合艦隊司令官伊東祐亨殿

大木 信

0425

(6) 甲

廿八年二月廿六日

訓令 當日發電

葛城他ニ使用ノ自的アルニ由リ横濱貨入廻航ニ修理ヲ為サレム
シ

明治三十二年二月二十日

大本營

西海艦隊司令長官 田中 青井 上 良 馨 殿

大本營

0426

蘇岩船隊員令長官ハ存電海ヲ控運ニシテ 佐世博古元宛

訓分二十六号 (6) 甲 廿八年二月廿七日

三月九日受領

刻印

陳伏船滿達平達度丙三船佐世保軍港へ到着セバ直ニ
兵軍港へ廻航セムヘシ

明治二十一年二月二十日

大本營

蘇岩船隊員令長官伊集院元了殿

大本營

0427

○(6)甲

二月廿七日

訓令七十七号

訓令

一元丸の送船及兵船之作船トシ神丸の病院及供給船トシ聯
合艦隊の省力ト共ニ南方ニ派遣セントス
二神丸ハ即日元丸ハ後保隊港到着トシ身以テ一隊長官ノ指
揮ニ付セヨ

明治二十九年二月廿七日

大本營

聯合艦隊司令長官伊東祐兵殿

大本營

0428

○

(6) 甲

二月二十七日

訓示八号

訓令

一 劇公島守備、為步兵一中隊(需名)二月二十日午在(時)乘船
對馬(山)岩(岩)

二 同隊(劇公)鳴(劇)者(時)日(實)官(指)揮(下)又(ラ)シム
明治二十六年二月二十七日

大本營

西海軍隊員會長官田中野村井上良馨等

大本營

0429

○ (6) 甲

廿八年二月廿七日

命升世五号

余屋

一神虎ノ病院及供活船トシ聯右艦隊首カト共ニ南方ニ派遣セ

ニシテ

二神丸ニ時聯右艦隊司令長官ヲ指揮シニ付セシム

明治二十八年二月二十日

大本營

佐世保鎮守府司令長官柴山矢八殿

大本營

0430

令外第六号(6)甲 廿八年二月廿七日

命令

一 元丸の造船及兵器製作船とシ聯合艦隊の首力ト共ニ南方派遣
セシム

二 貴官、同船、準備整頓ヲ待テ佐世保軍港ニ廻航セシム時聯合艦隊司令長官ノ指揮ニ属セシム

明治二十八年二月二十七日

大本營

茲順口海軍根據地司令長官坪井航三殿

大本營

明治七年(6)甲

廿八年二月廿八日

命令

一 常備艦隊附屬第四水雷艦隊、聯合艦隊、首カト共ニ南方ニ
派遣セシム

二 貴官、同艦隊ヲ指揮保軍艦ニ集居シ出征準備ヲ整頓セシム
明治七年二月二十日

大本營

聯合艦隊司令長官伊東祐亨殿

大本營

(6) 甲

廿八年三月一日

割合

豊信

軍船天城ノ横須賀軍港ニ廻航セシムヘシ

明治二十八年三月一日

大本營

西海艦隊司令長官男爵青井上良毅香殿

大本營

0433